



消えゆく雪色に恋して

少し前、冬の利尻島の巡視中に、凍てつく海岸から飛び立つオオセグロカモメの姿を見かけました。島の厳しい風雪の中で生き抜く動物たちの姿は、夏にも増して逞しく映ります。今年の雪解けはあまりにも早く、いつの間にか過ぎ去ってしまった雪景色が恋しくなりますが、利尻山を見上げると、もう少しの間、美しい雪の色を見せてくれそうです。

撮影地：仙法志御崎公園（利尻町）

利尻島

来冬の再会を期して

冬の礼文島の海岸で、ユニークな模様をした鳥が連なって泳いでいました。ひときわ目を引くこの鳥はシノリガモの雄で、冬鳥として少数が礼文島にやってきます。もう1羽、ウミアイサの雌が、シノリガモの一行と向き合うように水面を進んでいきます。まるで「いつ発つの？」と冬鳥同士で挨拶でも交わしているかのような、冬の礼文島での1シーンでした。

撮影地：礼文島北部（礼文町）

礼文島



お気に入りのこの場所で

まだ雪が残る幌延ビジターセンター近くの森で、真っ白なエゾユキウサギに出会いました。白い雪原に紛れてこっそりと日向ぼっこをしているのか、ウトウトと気持ちよさそうな寝ぼけ眼がとても愛らしいです。消えゆく雪を惜しむかのように、しばらくの間、お気に入りの場所を動かなかったエゾユキウサギ。次は新緑の森で、衣替えした姿を見せてくれるのでしょうか。

撮影地：幌延ビジターセンター周辺（幌延町）

サロベツ



北海道地方環境事務所では北海道の国立公園などで、活躍するアクティブレングャーの活動を紹介する「アクティブレングャー日記」も配信しています。左のQRコードからご覧ください。



「国立公園たより」とは、日本最北の国立公園利尻礼文サロベツ国立公園で働く環境省のスタッフが季節ごとのとっておきを皆様にお届けする広報誌です。

※バックナンバーは左のQRコードからご覧になれます。

発行：環境省稚内自然保護官事務所